

高校生が薦める本を読んでみませんか

県立図書館

令和4年度版「鹿児島の高校生が薦める本」パンフレットを作成中です。

鹿児島県立図書館では、「にじいろの本」や「モデルリスト」など様々な形で良書を紹介しており、今年度は、「鹿児島の高校生が薦める本」を紹介する予定です。

子どもと読書

第4次鹿児島県子ども読書活動推進計画の中では、読書の大切さについて次のように述べられています。

「子どもの読書活動は、子どもたちが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことができないものです。そのため、全ての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、主体的に読書活動を行うことができるよう、社会全体でその推進を図っていくことが極めて重要です。」

では、子どもたちは読書を通じて、具体的にどのような力を養っているのでしょうか。

『第64回青少年読書感想文全国コンクール入賞作品集 考える読書』（全国学校図書館協議会編、毎日新聞出版）によると、『また、同じ夢を見ていた』（住野よる・著/双葉社）を読んだ高校生は、「自分をよく知り、相手をよく知る方法も解する人を、私は素敵で大人、と呼びたい。」と述べています。また『かがみの孤城』（辻村深月・著/ポプラ社）を読んだ中学生は、「私は心の中で、それぞれの中学生の立場となり、読み進めていった。ある子がいじめにあう場面では、胸が締めつけられたり、ある子が学校に馴染めずにいる場面では、ドキドキして緊張したりした。」と述べています。

このように子どもたちは、読書によって、豊かな創造力を働かせ、自分の世界を広げていきます。県立図書館にある椋鳩十氏の記念碑に刻まれている「感動は人生の窓を開く」という言葉のように、子どもたちが良書と出会い、人生の窓をひとつずつ開けていく、そんな機会を与え続けていきたいものです。

同世代が薦める本を

そこで、中・高生の読書意欲の向上に役立ててもらうために、県立図書館では「鹿児島の高校生が薦める本」と題したパンフレットを作成しています。このパンフレットは、学年段階が進むにつれて、読書から離れる傾向を改善するとともに、読書活動を効果的に推進するために、友人等同世代から本を紹介する取組の充実につながることをねらいとしています。県内の高等学校に依頼し、生徒から推薦された本の中から、中・高生の読書活動を豊かにし、人間形成を図ることのできる図書を選定しました。

今年度の高校生が薦める本は……

さて、今年度薦められた本を少しだけ紹介します。最も多くの高校生から薦められた本は、『かがみの孤城』（辻村深月・著/ポプラ社）でした。また、今年度本屋大賞を受賞した本や、新書など社会問題について考えるものもありました。

このパンフレットは、3月頃、県内の高校や中学校、公共図書館にお届けします。この機会に青春まっただ中の若い感性に触れてみませんか。

【お薦めの本の一例】

タイトル	著者等	出版社
かがみの孤城	辻村深月	ポプラ社
また、同じ夢を見ていた	住野よる	双葉社
52ヘルツのクジラたち	町田その子	中央公論新社
スマホ脳	アンデシュ ハンセン 久山葉子訳	新潮社
なぜ僕らは働くのか	池上彰監修	学研プラス